高島織物

暮らしは、糸に寄り添い、
糸は、暮らしに寄り添い、
人々の暮らしを支えてきた。

TEXTILE TAKASHIMA
TAKASHIMA TEXTILE INDUSTRIAL ASSOCIATION

http://www.takashima-orikumi.shiga.jp

タカシマ

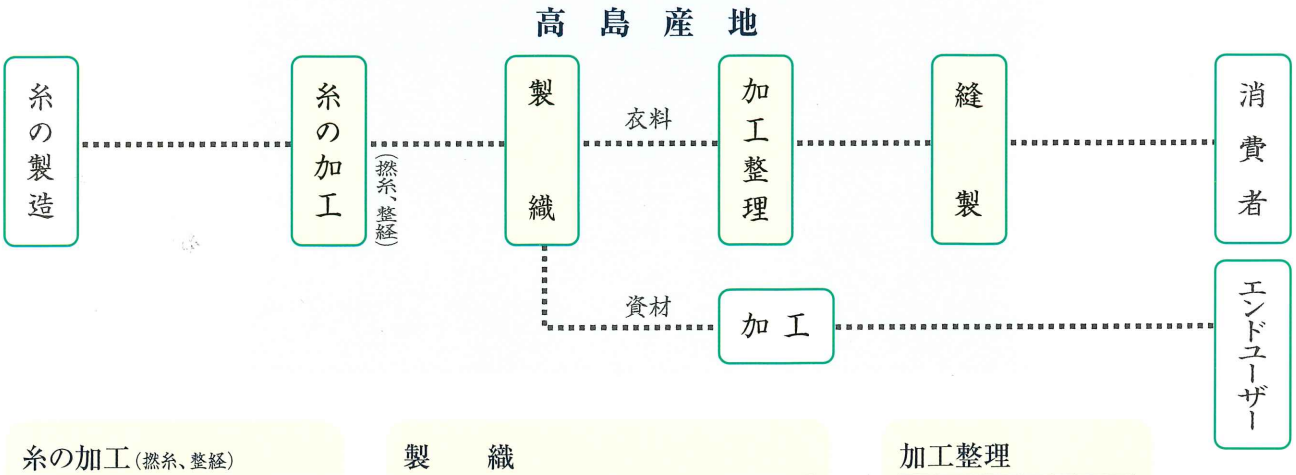
最適な自然と
先人によって育まれた織物

織物に適した自然的立地条件（豊富な水・適度な湿度・肥沃な土地）が
備わった高島は
北に海津大崎・箱館山があり
西に饗庭野、阿弥陀山
南に比良山系、武奈ケ岳を眺め
東に満々と水をたたえる琵琶湖を控え
湖の彼方に伊吹山がはるかに眺められる
古くから自らのために紡ぎ織り、そして
京阪地方に売りにでかけた近江商人「桑原喜兵衛※」の
眺めた郷里の山々の姿も、我々が現在見るその景色と
同じく壮大だったことだろう

※桑原喜兵衛:江戸時代中期ごろ「高島縮」の名を多年にわたり全国に広めた近江商人

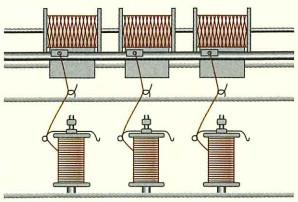
織物が出来るまで

高島は地域内で整経・織・加工まで一貫して行っている産地です。

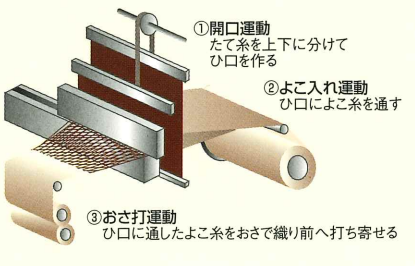


糸の加工（撚糸、整経）

紡績された糸は1mに1000回程度の撚りがかけられている。これを更に1200～1300回撚ることにより、クレープの緯糸（よこいと）ができあがる。



製織



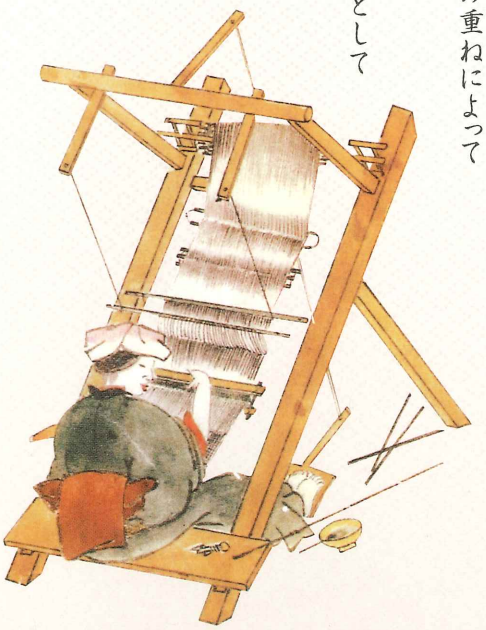
加工整理

精錬漂白、染色、プリント、仕上げ加工

伝統

Tradutuions

比良の山なみを西に仰ぎ、湖面に独特の「鮒（えり）」が美しい曲線を描く、
日本一の湖、琵琶湖。
その北西部に位置し、近江聖人といわれた中江藤樹（なかえとうじゅ）を生んだ高島地方の綿織物は、
江戸の頃にその起源を求めることができます。人々は綿を紡ぎ、手機でこれを織り、
そして染めて、日常生活の用に供していたといわれます。
それが明治維新後、文明開化の流れの中で企業化の産声をあげるように
なりますが、確かな技術の歴史と恵まれた風土に育まれ、
さらには先人の苦労とたゆまぬ研鑽の積み重ねによって
順調に推移してまいりました。
今日、地域経済の基幹をなす地場産業として
確固たる地位を築き上げ、
いっそうの発展をめざしています。



沿革

明治十九年　近江木綿縮営業組合設立
明治三十年　高島木綿縮綿ネル同業組合設立
明治三十九年　高島織物同業組合と改称
大正十五年　高島織物販売購買利用組合と改称
昭和十一年　高島織物工業組合と改称
昭和二十二年　高島織物工業協同組合設立
昭和二十九年　高島クレープの産地加工を行うため協同組合の晒加工部を発足
昭和三十三年　高島晒協同組合設立
昭和四十五年　高島晒協同組合を高島晒協業組合と改称
昭和四十六年　高島晒協業組合と高島織物工業協同組合とが合同して高島晒新工場建設を決定
昭和四十七年　産地近代化計画に基づき新工場建設し全面移転を決定（九月）
組合直営サイジング工場を水沼地区に新築移転（十一月）
昭和四十九年　高島晒協業組合新工場竣工（九月）
平成十年　繊維産業構造改善円滑化事業
整経機二台　サイジング機一台倉庫その他付随設備（三月）
平成十四年　織物組合事務所移転（六月）
サイジング工場に併設
平成二十二年　高島市地域産業創造事業（高性能サイジング設備導入）
サイジング機一台　整経機一台
倉庫その他付属設備
平成二十三年　高島工業技術センター試験機移設
見本整経機他
平成二十四年　「高島ちぢみ」地域団体商標登録
平成二十五年　「高島颯布」一般商標登録

資材

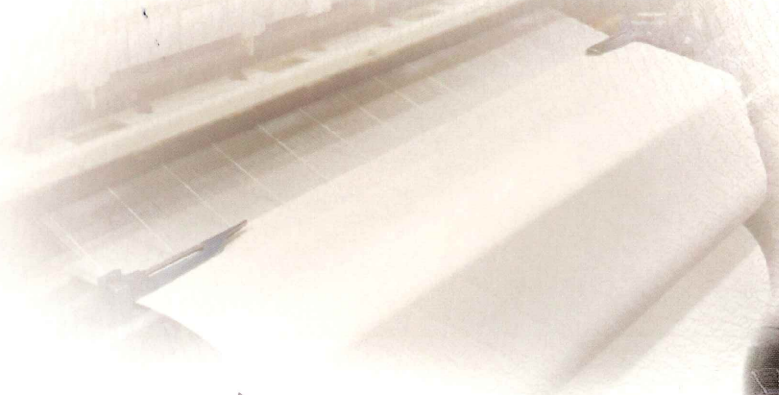
最新技術で市場ニーズに応え、
あらゆる産業界で大活躍。

産業用資材織物

産業用資材織物は、明治の末期頃タイヤの芯地としての製織が始まりで、その後自動車産業の発展に伴いタイヤコード・ベルト基布等の生産が盛んになり、綿帆布・合繊帆布と共に、さまざまな分野に供給して参りました。

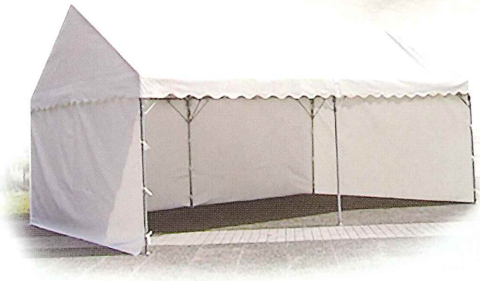
産業用資材とは、タイヤ・ベルト・ホース・テントなど自動車用・工業用・土木建築用等の主に非衣類分野における繊維を使用した資材を指します。

グローバル化が進む中、繊維素材の研究開発・高付加価値資材の技術要求が高まってきており、これに答えるべく企業間及び産官学の連携を図り、より一層の技術レベルの向上と市場用途の拡大を目指します。



ベルト基布

タイヤコード



テントシート

消防ホース

新たなブランドの拡大“高島颯布”

産業資材で培った高い技術力で確かな品質の帆布を生産。バックやファッション小物など幅広く利用されています。
近年では、日本国内にとどまらず、
海外でもその価値を認められています。

颯布

高島帆布

一般商標
第5593828号
平成25年6月認可

衣料

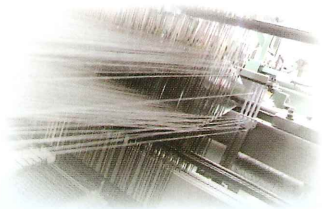
優れた素材感と伝統技術で、
新たな商品を生みだす。

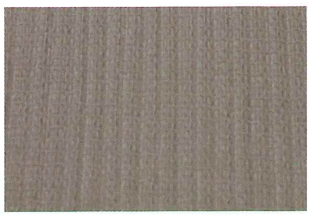
衣料用織物「しぼ」への拘(こだわ)り

衣料用織物としての高島は、綿糸を強撚加工した生地の製織が得意な産地です。その生地は古くから「高島縮(たかしまちぢみ)」の名で夏の装いとして親しまれており、表面の「しぼ」は、さらりとした涼感を肌に伝えます。

今日においては、古くからの経験に裏打ちされた技術を用いて、「撚糸」・「製織」・「加工」の組み合わせ次第で、色々な「しぼ」を表現することが可能になりました。綿素材本来のメリットを活かしつつ、さらにその特性を伸ばすこと、それが我々の行っている生地生産であります。

さらに、多様化するニーズに応えるためにもお客様に、いかに喜んで頂けるか、いかにくつろいで頂けるかということを大事に考えていきたいと思います。





ピケ楊柳

綿ちりめん

波しぼ楊柳

びわこ源流の郷たかしま
高島ちぢみ®

びわこ源流の郷たかしま
高島ちぢみ®
日本製

「高島ちぢみ」は琵琶湖の北西に位置する高島市で江戸時代天明の頃より生産されていました。その伝統はちぢみ・クレープ・楊柳織物として絶えることなく今日へと受け継がれています。
織物に独特なシボ（凸凹）をつくり肌への接触面積を少なくし、サラッとした肌触りで吸汗性にすぐれ、高温多湿な日本の風土に適した涼感素材です。
滋賀県　高島織物工業協同組合・高島晒協業組合

ちぢみ（楊柳・クレープ）生地
肌への接触面積が少なくサラッとした肌ざわり
商標登録 第 5461250 号

地域団体商標
第5461250号
平成24年1月認可

高島晒協業組合

高島縮の発祥から受け継がれた伝統の加工技術は、絶える事無く今日へ発展を遂げながら、高島晒協業組合に蓄積されております。その全国でも群を抜いた強撚糸生地の加工知識は、高温多湿な日本の風土に適した付加価値素材を作り上げています。
また、環境への取り組みにおいても加工排水の規制・条例をクリアし、琵琶湖をはじめあらゆる自然環境の保全に万全を期しております。

加　工

環境への取り組み

高島織物工業協同組合

http://www.takashima-orikumi.shiga.jp

当組合の安定した荒巻整経技術は高島産地の生産品質の向上に役立っております。
また、産地の内外を問わずユーザー様からの多様な要望にも積極的に取り組んでおります。

見本整経機

荒巻整経機

サイジング機

設備及び能力

- 小ロット対応用小割り ワインダー機
- 荒巻整経機4台
  (経糸最大本数7200本まで可能)
- サイジング機2台
  (ビーム幅260cmまで可能、月産加工可能量180万ヤードの能力)
- 見本整経機

〒520-1501 滋賀県高島市新旭町旭714-5 TEL.0740-25-3551 FAX.0740-25-5345
E-mail:takashima-orikyou@siren.ocn.ne.jp